

三芳町の財政白書

平成23年度決算



わかりやすく説明します！



平成25年 3月

財政白書をつくろう会

三芳町

はじめに

三芳町は「財政力指数が1を超える不交付団体で豊かな町だ」という声をよく耳にします。しかし「本当に豊かなのだろうか?」「三芳町の財政はどうなっているのか?」という疑問がありました。

そんな時に、町主催の市民大学講座「市民が作る財政白書～自治体財政を学ぶ～」の受講者募集が広報みよしに載り、早速参加の申し込みをしました。この講座は、地方自治体の財政分析で有名な大和田一紘先生が講師をつとめられ、平成23年7月から10月まで計8回にわたって開催され、分からない行政用語や、多くの数字と悪戦苦闘し、何とか最後まで受講することができました。

最後の講座が終わった時に、もっと地方財政を理解し、その上で三芳町の財源はどのように生み出されて、また大切な財源がどのように使われているのか、そして、三芳町の財政の現状はどうなっているのか。多くの住民に財政白書という形で町の財政状況を伝えようという有志が集まりました。講座が終わった翌月の11月から三芳町の財政白書作成に向けて活動を始めました。

本書は一方的な考え方を押し付けることなく、読者の方に三芳町の財政状況を理解していただきたいと考えております。本書を読んで三芳町財政の理解を深めていただくことを願っております。

なお、この財政白書では総務省が発表している全自治体共通の「決算カード」の基になる三芳町「平成23年度決算状況調書」の数字を採用していますので、町が広報で発表している決算の数字とは若干異なるところがあることをご了承ください。

また「平成23年度決算状況調書」の内容を項目ごとに説明していますので、理解を深めるために「手元資料・平成23年度決算状況調書」(本書に添付)をお手元に置いて活用してください。

平成25年 3月
三芳町の財政白書をつくろう会

－ 目次 －

三芳町の概要

1. 三芳町の特徴

(1) 位置・地勢・面積	1
(2) 町の歴史	2
(3) 世帯と人口	3
(4) 近隣市の人口密度	4

2. 三芳町ミニ統計

(1) 三芳町の人口	
a. 人口構成	5
b. 年代別人口推移	7
(2) 三芳町の土地利用	8
(3) 三芳町の産業構造	9

第1章 地方財政の基礎知識

1. 国と地方の関係

(1) 私たちの生活を支える地方自治財政	10
(2) 地方行政の役割分担	10
(3) 地方債現在高の推移	12
(4) 地方財政を保障する地方交付税制度	12
(5) 不交付団体のメリット・デメリット	13

2. 三芳の財政

(1) 三芳町は地方交付税不交付団体	14
(2) 平成23年度 三芳町の全会計の決算状況	14

第2章 一般会計決算状況

1. 一般会計収支決算

(1) 一般会計収支決算状況	16
(2) 行政サービスにかかる費用	18

2. 一般会計歳入決算の状況

(1) 一般会計・歳入	25
(2) 一般会計・歳入内訳	27
(3) 歳入決算の推移	29
(4) 地方税収入	30
(5) 国庫・県支出金の内訳	
a. 国庫支出金	31
b. 県支出金	32

3. 一般会計歳出決算の状況	
(1) 一般会計・歳出	34
(2) 目的別歳出決算	36
(3) 目的別歳出決算の推移	37
(4) 性質別歳出決算	38
(5) 性質別歳出決算の推移	39
(6) 目的別・性質別の分析	40
(7) 性質別歳出項目ごとの推移	
a. 人件費	41
b. 扶助費	43
c. 物件費	45
d. 補助費等（補助金及び負担金）	47
e. 繰出金	49
f. 普通建設事業費	51
4. 基金	53
5. 町債	56
(1) 年度毎発行額	57
(2) 町債残高の推移	58
(3) 公債費（返済）	59
(4) 今後の予想	61

第3章 特別会計・公営企業会計決算状況

1. 国民健康保険特別会計	63
2. 介護保険特別会計	67
3. 後期高齢者医療特別会計	71
4. 下水道事業特別会計	74
5. 水道事業会計	77

第4章 財政指標等

1. 財政指標	81
2. 財政健全化判断比率	86
3. 財務書類4表	89

資料

三芳町決算カード	100
決算カードについて	101

三芳町の概要

1. 三芳町の特徴

(1) 位置・地勢・面積

三芳町は、首都圏30kmに位置し、埼玉県の南西部、いわゆる武蔵野台地の北東部にあたり東西6.9km、南北4.2kmと東西にやや長く、総面積は15.3km²です。

関東ローム層と呼ばれる火山灰が厚く堆積した武蔵野台地に位置し、西から東へとゆるやかに下がる勾配をもつものの、おおむね平坦な台地が占めています。

東に富士見市、志木市、西に所沢市、南に新座市、北にふじみ野市、川越市とそれぞれ境界を接しています。



町内に鉄道はありませんが町の東部に東武東上線が南北に走り、最寄りの駅は鶴瀬駅とみずほ台駅です。

川越街道が東上線の西1km先に南北に走っています。東上線と川越街道の間は市街地が形成されています。

川越街道の西1km先に関越自動車道があり、町内に三芳パーキングエリアがあります。

また川越街道より西の地域は農地や武蔵野の面影を残す緑地が広がり、緑豊かな環境です。



(2) 町の歴史

* 旧石器時代

三芳町の曙は約3万年前にさかのぼります。関東最古の藤久保東遺跡から多くの石器が発掘されました。人々は獣を追って三芳の地に足を踏み入れ、数日から数ヶ月滞在しました。

* 縄文時代、弥生時代

藤久保の遺跡から竪穴住居跡や土器が発掘されました。人々が三芳に定住した事がうかがえます。西暦2百年前後の弥生時代には、柳瀬川流域に水田を作り、稲作を始め集落が営まれていました。

* 古墳時代

7世紀頃、三芳町のほとんどは台地上に位置しているため、大規模な水田を営むことができませんでした。そのため、三芳町の一部に住居跡がありましたが、大きな集落はありませんでした。

* 平安時代

みよし台一帯には瓦や壺などを焼く窯が築かれており、三芳は瓦や壺の一大生産地でした。

* 鎌倉・室町・戦国時代

武蔵野は見渡すばかりの原野でした。その原野の中、三芳町の南北に「鎌倉街道」があり鎌倉武士が馬を走らせていました。

＊江戸時代

三芳の地域が本格的に開発されました。元禄7年(1694年)、川越藩主・柳沢吉保により「三富新田開発」が実施されました。

開拓後、おおよそ50年後にさつまいもが作られはじめ、江戸時代の終わりには、江戸で評判のさつまいもの特産地となってきました。

＊明治22年 三芳村が誕生

上富村、北永井村、藤久保村、竹間沢村の4村が合併しました。

＊昭和45年 三芳町が誕生

長期間にわたり純農村地帯として歩んできましたが、昭和40年代から高度経済成長とともに首都近郊のベッドタウンとなり、また、首都圏の流通基地としてめざましい変貌を遂げました。

(3) 世帯と人口

＊昭和45年「三芳町」になった時の人口は14,475人でした。

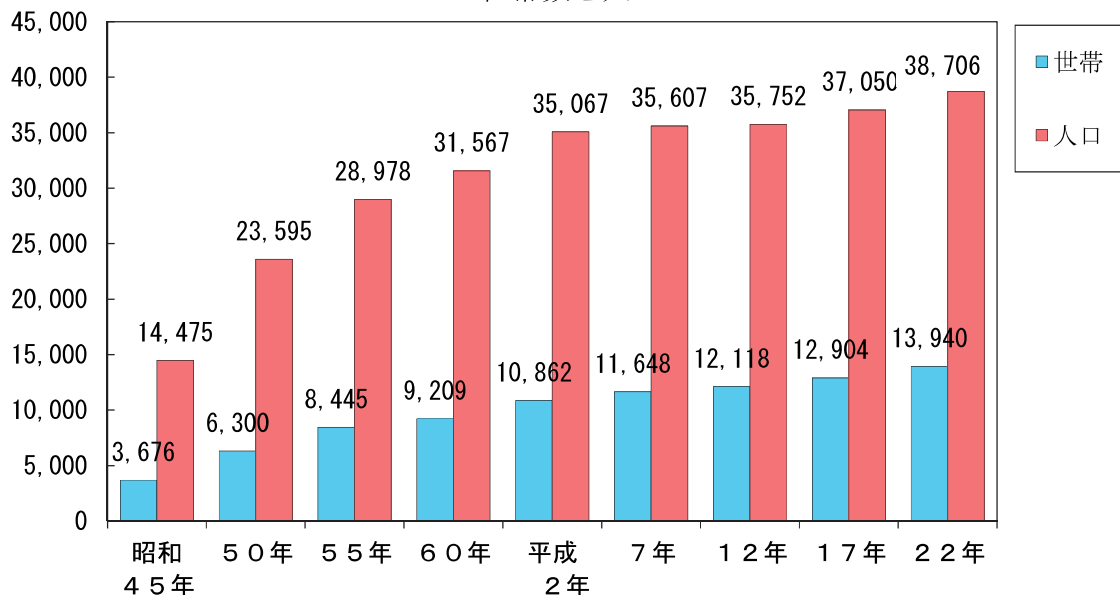
＊昭和50年には9,000人増え人口は23,595人になりました。

＊昭和52年には「みずほ台駅」が開所し、三芳町の宅地開発が進み昭和45年から10年間で人口は倍増し、昭和55年には28,978人になりました。

＊次の5年間で2,500人増えた後、15年間は35,000人台で横ばいでした。

＊平成17年になって37,000人台と微増し、平成22年は38,706人です。

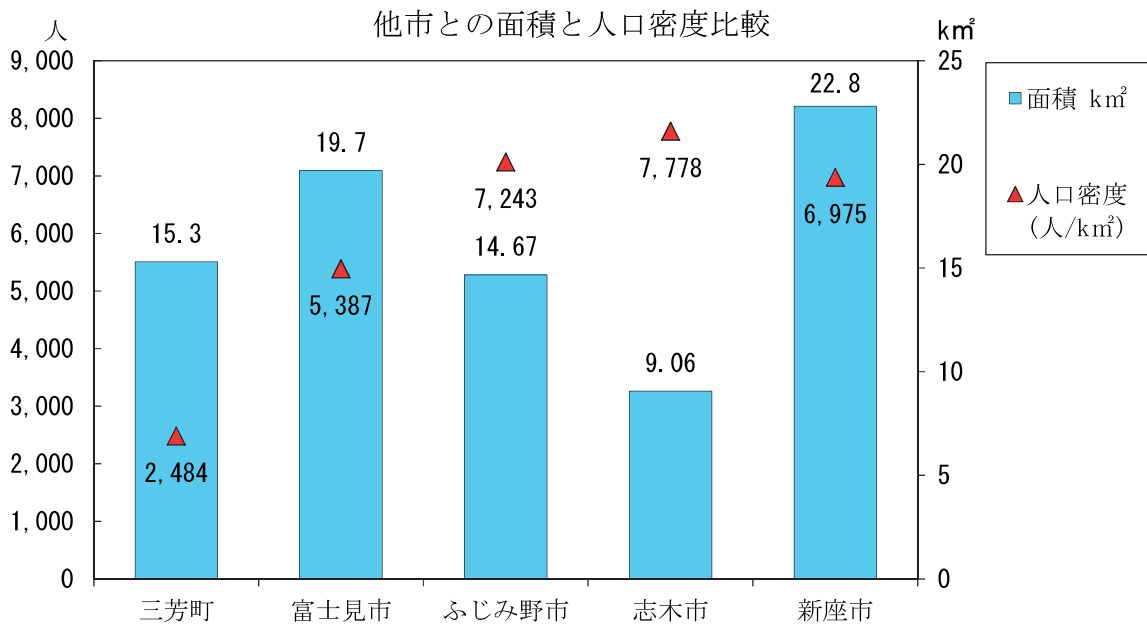
世帯数と人口



(※ 各年の人口及び世帯数は、10月1日現在の国勢調査による)

(4) 近隣市の人口密度 (1km²あたりの人口)

三芳町は周辺市に比べて人口密度が低く、将来の可能性を秘めた町です。



	三芳町	富士見市	ふじみ野市	志木市	新座市
人口	38,009	106,130	106,251	70,466	159,021
面積 km ²	15.3	19.7	14.67	9.06	22.8
人口密度 (人/km ²)	2,484	5,387	7,243	7,778	6,975

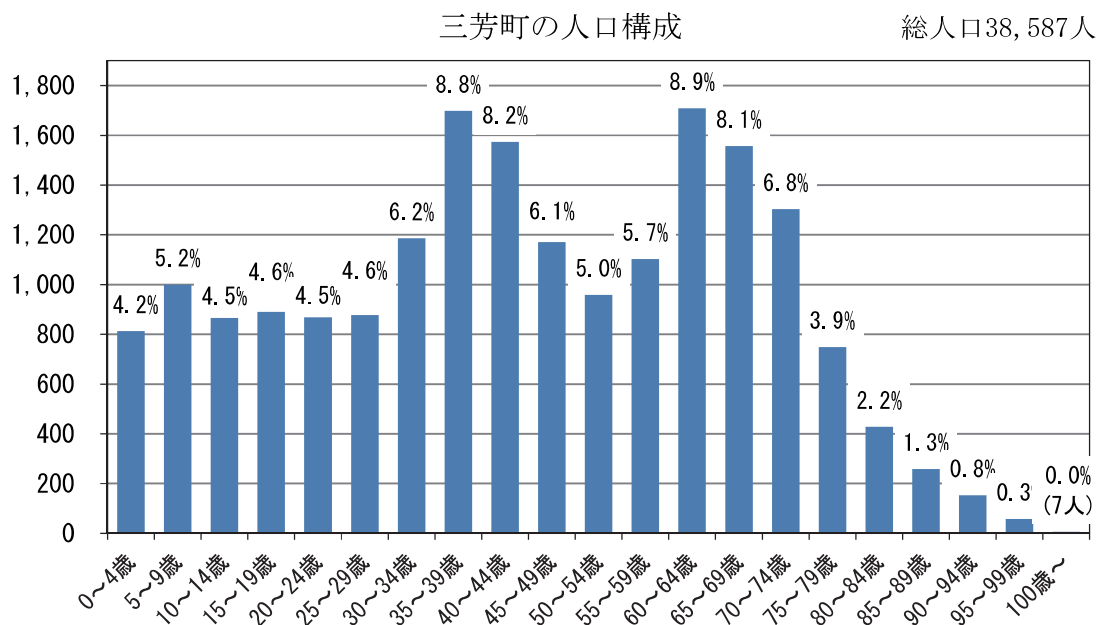
(※ 人口は平成24年3月31日現在の住民基本台帳による)



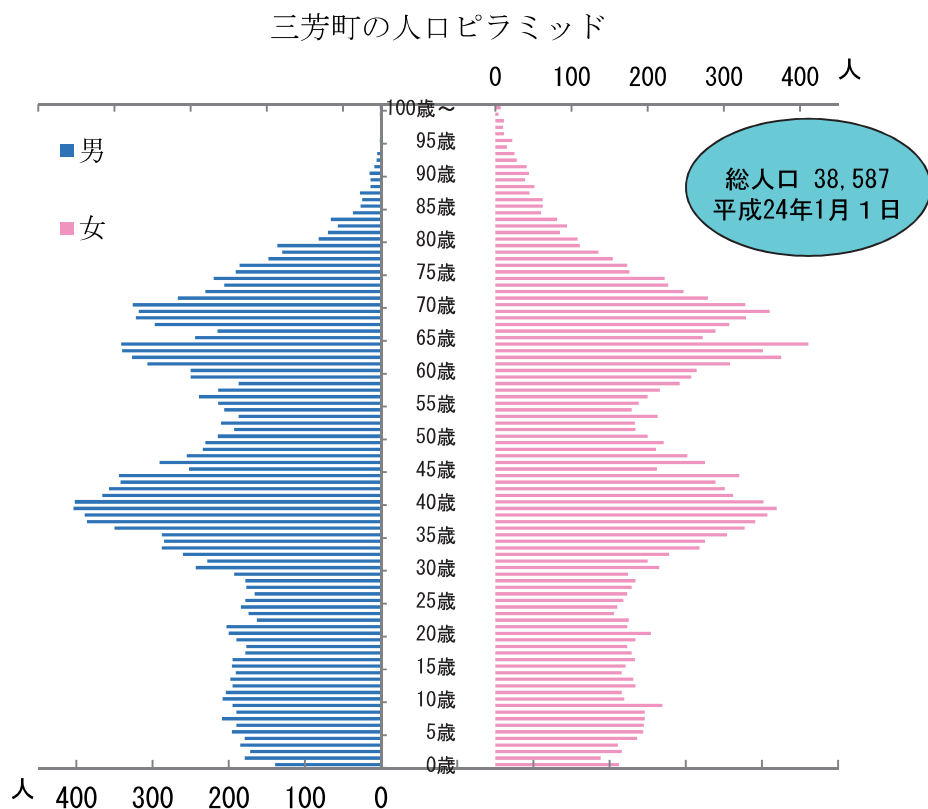
2. 三芳町のミニ統計

(1) 三芳町の人口

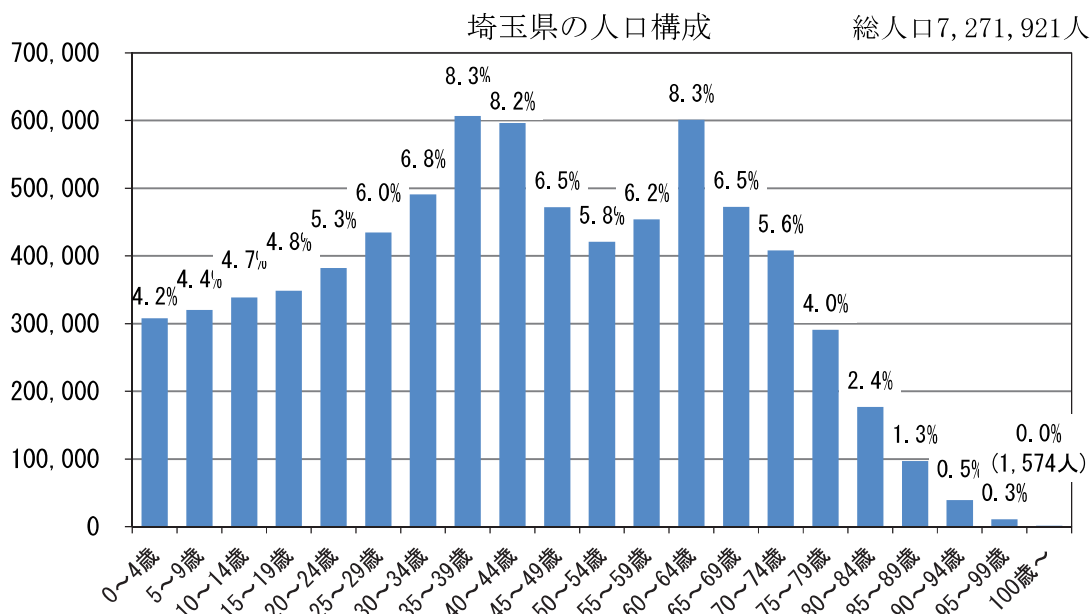
a. 人口構成



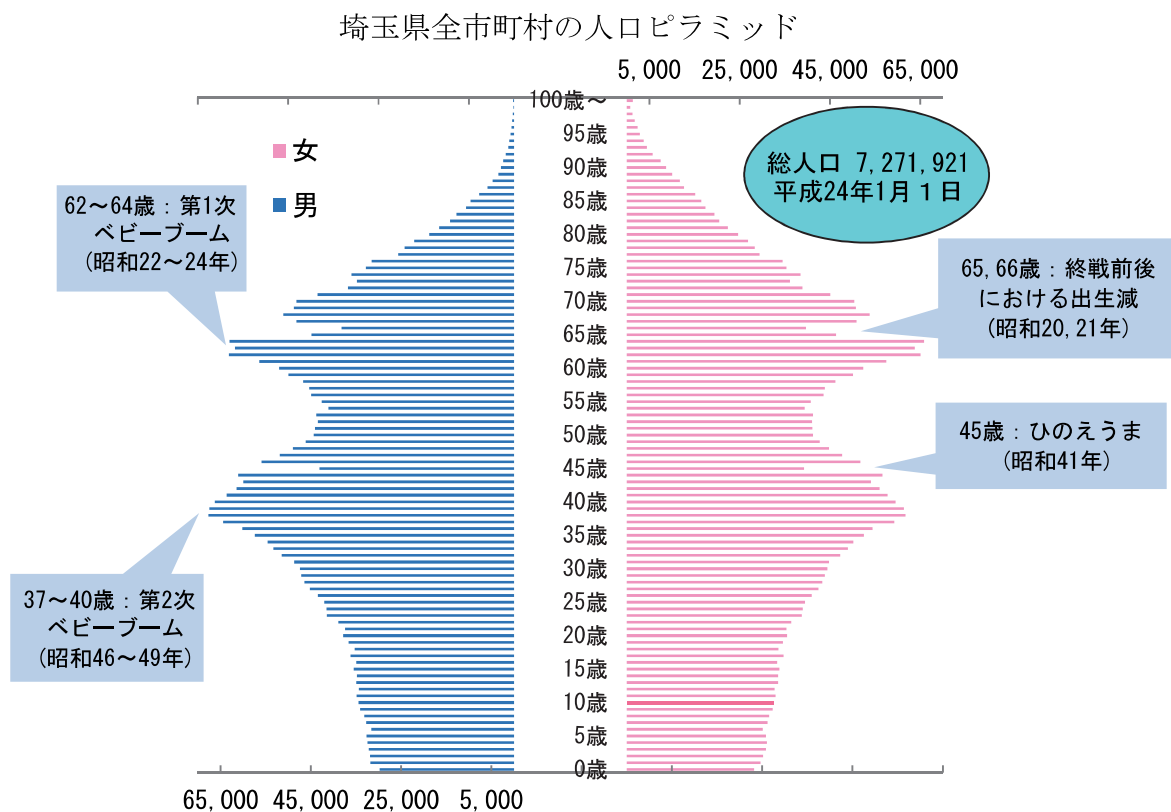
(※ 平成24年1月1日現在。埼玉県統計課データによる)



69歳前後、63歳前後の団塊の世代、及び39歳前後の第2次ベビーブームに3つのピークがあります。70歳前後のピークは、昭和45年の町制移行前後から多数の住民が転入し、その方々が70歳前後に達したと推測されます。

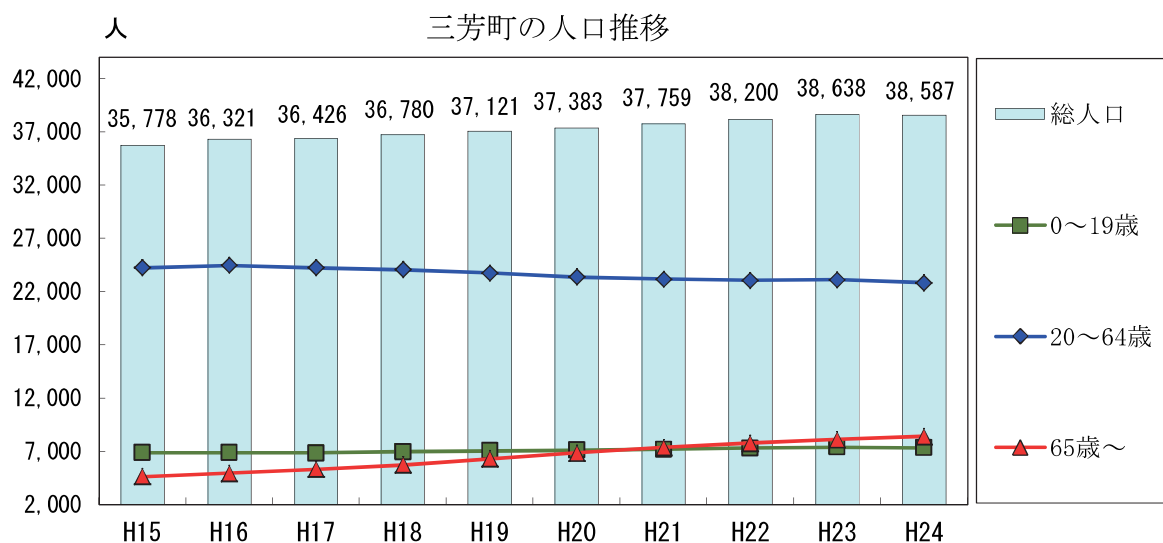


(※ 平成24年1月1日現在。埼玉県の統計課データによる)



県全体と比較すると、三芳町では20歳～34歳の人口比率が低くなっています。この世代は子供を産む世代に当たり、このまま推移した場合は三芳町の少子高齢化が進み、また団塊ジュニア世代の高齢化時期には再度高齢化を迎えます。

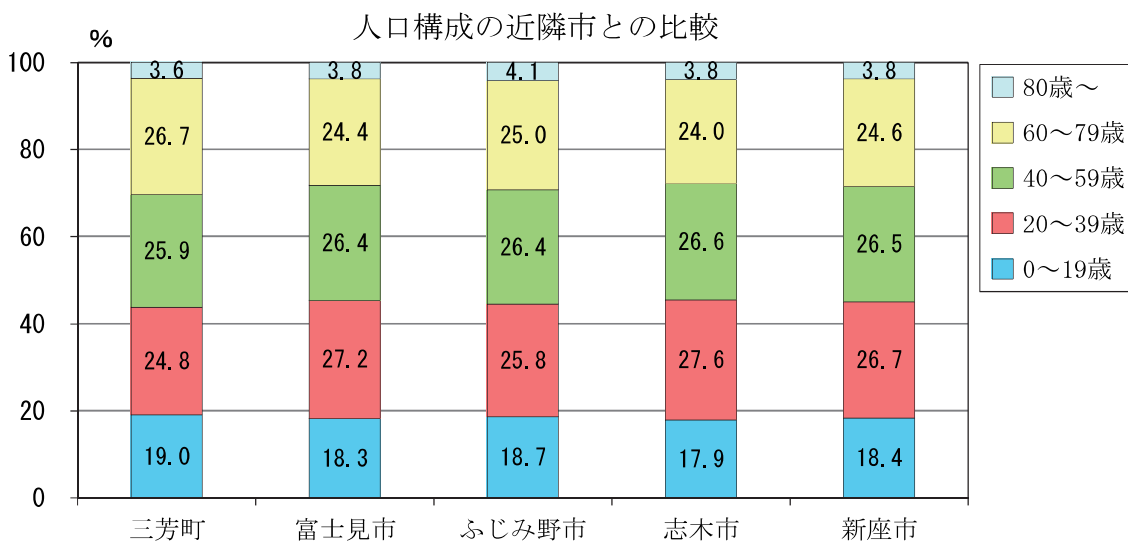
b. 年代別人口推移



(※ 埼玉県統計課の各年1月1日の人口データによる)

総人口は町制が施行されてからは常に増加してきましたが、平成24年には初めて減少しました。近隣市ではいずれも増加しています。

三芳町も全国の傾向と同じで、65歳以上の人口が増加し高齢化率が上がっています。逆にいわゆる現役世代の20歳～64歳の人口が少しずつ減り、今後の町民税の減収が心配されます。



(※ 埼玉県統計課の平成24年1月1日の人口データによる)

人口構成を近隣他市と比べると、80歳以上の構成は他市とあまり変わりません。しかし60歳～79歳は他市に比べて比率が一番大きくなっています。また20歳～39歳は近隣市で最も比率が低く、更に40歳以上の比率は56.2%と他市と比べて一番高く、これからも他市より高齢化が進むことが予測されます。

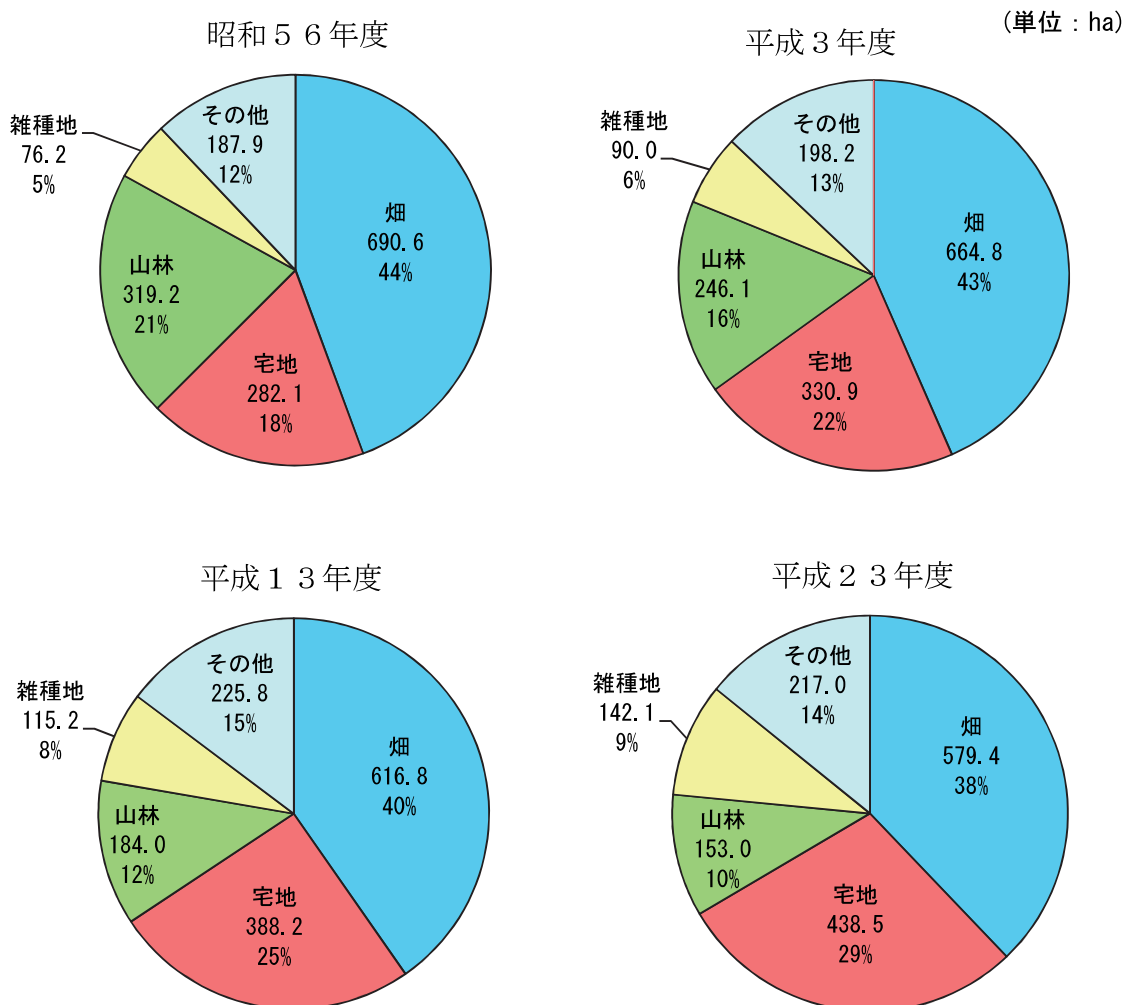
(2) 三芳町の土地利用

三芳町の土地利用を昭和56年度から見てみると、畑や山林が減っており、その代わりに宅地や雑種地が増えてきています。

では、なぜ畑や山林が減ってきたのでしょうか。

まず、畑が減っている要因としては、区画整理区域や市街化区域において畑から宅地等に転用されたことが多くを占めています。

また、それに伴い、農家数も減少しています。町の統計資料「統計みよし」によると、農家数は昭和55年度には511軒あったものが、平成22年度では273軒に減っています。



※ 雑種地とは、駐車場、資材置き場、荒地などをいいます。
 その他とは、公衆用道路などをいいます。

(3) 三芳町の産業構造

三芳町の産業構造を産業別就業人口から見てみると、第1次及び第2次産業が減っていて第3次産業が増えています。

この資料からも農業の従事者が減っていることが分かります。

また、運輸業、通信業が増加しているのは、三芳町が関越自動車道の所沢インターから近いこともあって、倉庫や運送会社が多くなっているためです。

